

毎日新聞

2015年(平成27年)5月18日(月)

首都圏

24

Mon

就活

Work & Employment

We

教授らが組織的支援

フェイスブックで情報交換

就職活動に奮闘する学生を、さまざまな業界で実務経験のある大学教員がサポートする取り組みを、東洋学園大(東京都文京区)が今年から始めた。大学がキャリアセンターを設置して就活生を支援するのは当たり前の時代になったが、研究活動が第一となる教授らの組織的な支援は珍しい。取り組みの現状を聞いた。

【稲田佳代】

この取り組みは「就職チャレンジプロジェクト」(SCP)。「誰でも自分しか経験していないことが必ずある。それが読み手に伝われれば光るESになる」「抽象的な言

葉はため。具体的な数字や固有名詞を使って」などとアドバイスを受け、添削されたESはすべて通過した。接客業の面接のコツも教えてもらった。

「大学は学問の府」と就活に無関心な教員も少なくない中、「就活で困った時は価値観や感性が合う近藤先生の顔が浮かぶ。感謝し

ているし、期待に込めたい」と相原さん。「私も指導してほしい」という学生も現れ、相原さんのやる気が波及効果も生んでいる。

玩具メーカーを志望する石山茂樹さん(25)は、早く働き、社会に貢献したい思いが強い。「SCPを通じて、違う学部だが、同じ考えを持った友人と出会えた」と喜ぶ。学生や教員のネットワーク化もSCPの狙いの一つで、フェイスブックでも情報交換や相談を行っている。



永井秀哉教授(右)が提案した「就職チャレンジプロジェクト」に参加する相原怜奈さん(中央)と、指導する非常勤講師の近藤昭一さん(左)＝東京都文京区本郷1の東洋学園大学で

野や公正取引委員会の職歴がある13人の教員が協力し、今年1月に始動した。春に4年生になる学生約420人のうち、就活に早くから関心を持ち、ゼミの担当教員が推薦するなど、条件を満たす学生80人にプロジェクトへの参加を呼びかけて、約50人が応じた。

2月9日、各教員が自身の業界の紹介や仕事のやりがいなどについて講演。翌日、学生は学部の垣根を超えて興味のある教員の下に集まり、就職志望先を絞り込むワークショップを開いた。同月20日には、エントリーシート(ES)の発表と模擬面接も行った。

学生の一人、相原怜奈さん(21)は、ゼミの教員に推薦され「期待されているように、うれし」とSCPに参加した。相原さんは、京王プラザホテルで人材開発担当部長を務めた元教授で、現在は非常勤講師の近藤昭一さんの下に付き、ブライダル業界を目指す。2月以降もESを近藤さんに送り、個別に添削を頼んだ。